

fig. 4.9.1 六義園と地形  
1 : 25000



## 4.9 六義園

### ■地形との関係

台地の上にある。周囲との境界に地形的な切れ目はない。

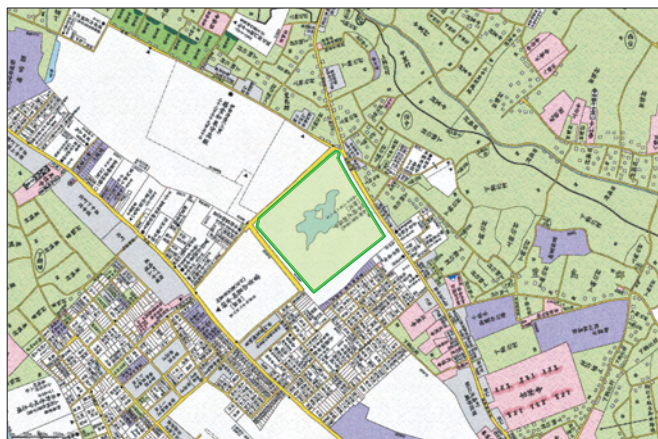


fig. 4.9.2 江戸時代の六義園周辺  
1 : 25000



### ■江戸時代の六義園周辺

六義園となる場所は下屋敷であり、江戸の二大庭園のひとつに数えられていた。北東側は街道に面しているが、向かい側は田畑のままである。北西、南西は多い武家屋敷が隣接し、南東が側も短冊盛に並ぶ武家屋敷がある。

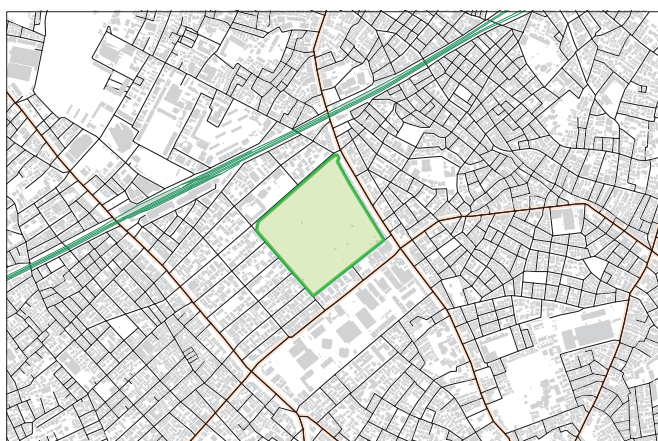
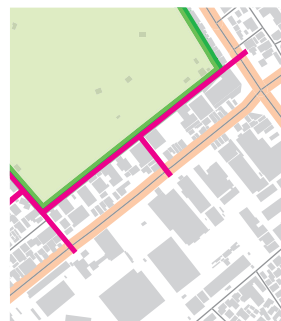
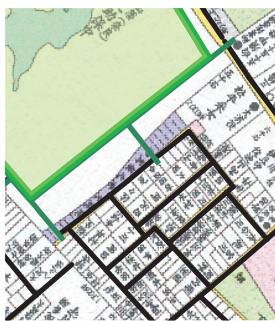
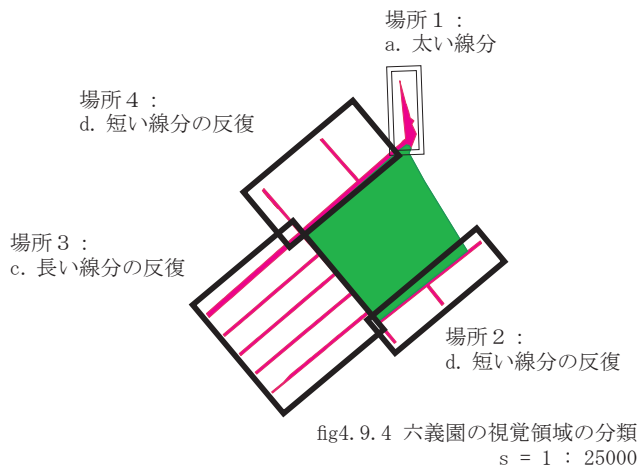


fig. 4.9.3 現在の六義園周辺  
1 : 25000



### ■現在の六義園周辺

明治時代に入り岩崎弥太郎氏（三菱創設者）の所有となった当園は、昭和13年に東京市に寄付されて一般公開されることになった。周辺の北側に鉄道が通り、街道が幹線道路として整備され、南側に不忍通りがつくられた。南西の武家屋敷は宅地として分割され、大きな家が並ぶ高級住宅地である。



## ■視覚領域の類型

六義園の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所1 : a. 太い線分

場所2 : d. 短い線分の反復

場所3 : e. 長い線分の反復

場所4 : d. 短い線分の反復

○場所1 : a. 太い線分

分析A

境界なし

道路が緩やかに曲がっていることで、視覚領域が途切れる。

分析B

公園：入り口

周辺：幹線道路

幹線道路に面して公園の入り口がある。

○場所2 : d. 短い線分の反復

分析A

江戸期の街路パターンの切り替わり

分析B

公園：堀

周辺：歩道を整備

公園に面する道路では、景観に配慮して歩道が整備してある。

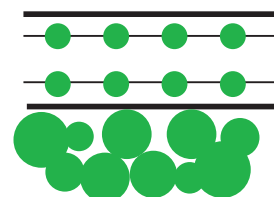


fig4. 9. 12 公園に面した道路  
の歩道を整備



---

○場所場所 3 : e. 長い線分の反復

分析 A

江戸期の街道での街路パターンの切り替わり

武家地だった場所が宅地化され短冊状の街区になった。白山通りで視覚領域は途切れる。

分析 B

公園：塀

周辺：住宅地

一体は高級住宅地である。

fig4. 9. 413  
江戸期と視覚領域  
1 : 15000

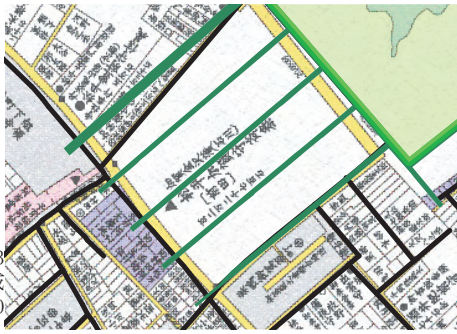


fig4. 9. 14  
現在と視覚領域  
1 : 15000

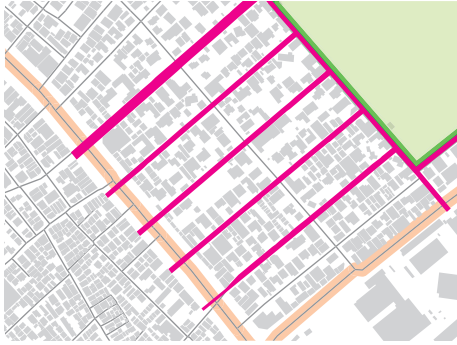


fig4. 9. 15  
公園に向かう道路からの  
緑の見え



fig4. 9. 16  
公園に面した道路

fig4. 9. 17  
江戸期と視覚領域  
1 : 15000

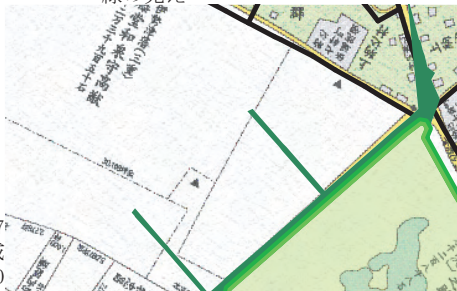
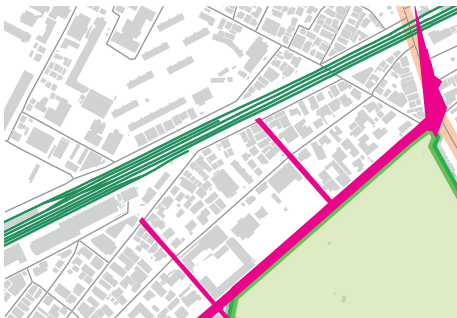


fig4. 9. 18  
現在と視覚領域  
1 : 15000



○場所 4 : d. 短い線分の反復

分析 A

鉄道

鉄道があることで道路は行き止まり、視覚領域は途切れている。

分析 B

公園：塀

周辺：住宅地

繋がりはない。



fig4. 9. 19  
公園に向かう道路からの  
緑の見え



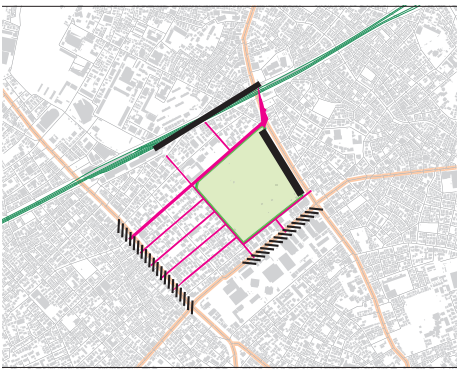
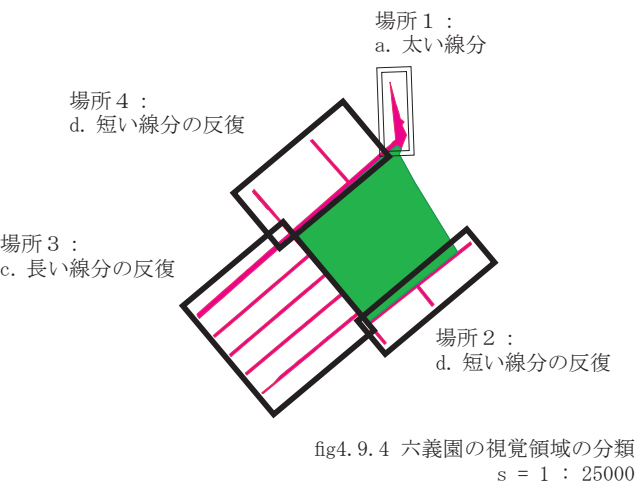
fig4. 9. 20  
公園に面した道路

小括

六義園の視覚領域の境界をまとめると以下ようになる。

場所	視覚領域の類型	江戸期の土地利用	視覚領域の境界
1	a. 太い線分	武家屋敷	なし
2	d. 短い線分の反復	武家屋敷	街路パターンの変化 (江戸期)
3	c. 長い線分の反復	武家屋敷	街路パターンの変化 (街道)
4	d. 短い線分の反復	武家屋敷の一部	鉄道

fig. 4. 9. 22  
六義園の視覚領域の境界一覧



街路パターンの切り替わりインフラによる視覚領域の切れ目

公園が宅地に面している

fig. 4. 9. 23  
視覚領域と境界  
1 : 30000

武家屋敷だった場所が宅地に分割された。高級住宅地である。道路が規則的で、視覚領域も長い。公園の周囲は塀で囲まれていて、周囲と繋がりはない。



fig. 4.10.1 清澄庭園と地形

1 : 25000



#### 4.10 清澄庭園

##### ■地形との関係

低地にあり、地形の変化はない。



fig. 4.10.2 江戸時代の清澄庭園周辺

1 : 25000



##### ■江戸時代の清澄庭園周辺

江戸時代は下屋敷で、当時から庭園は形作られていたが現在とは敷地境界は異なっている。街路パターンは主要なものは既にできている。東側は寺社地で占められている。

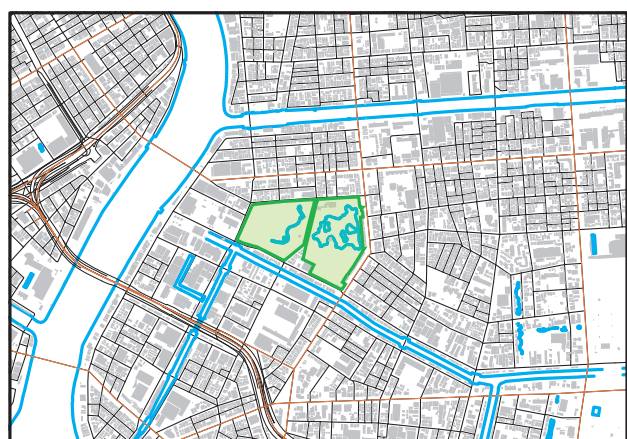


fig. 4.10.3 現在の清澄庭園周辺

1 : 25000



##### ■現在の清澄庭園周辺

明治11年に岩崎弥太郎が、荒廃していたこの邸地を買い取り、庭園造成を計画した。関東大震災で大きな被害を受けたが、この時災害時の避難場所としての役割を果たした。岩崎家はこうした庭園の持つ防災機能を重視し、翌大正13年破損の少なかった東側半分を公園用地として東京市に寄付し、公開されるようになった。また昭和52年に、庭園の西側に隣接する敷地を開放公園として追加開園された。こうした経緯より、公園は東側と西側の二つに分かれている。

北側に幹線道路である、清洲橋通りができています。埋め立てられた河川も多い。